

シ得ヘシ

土地ノ隆起 金谷海岸ニ於テ地震後約五尺(或ハ五尺六寸トモ云フ)一五米隆起セリ
鳴動 南五十度西

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ砂岩及角礫岩ヨリ成リ角礫岩ハ主トシテ鋸山ノ頂上ヲ構成ス、第三紀層ハ鋸山ノ北ニ於テハ東西、東北東或ハ西北西ニ走リ南方四十度内外ニ傾斜シ、南ニ於テハ北方五十度乃至六十度ニ傾斜シ鋸山ノ頂上ハ其向斜軸ニ該當ス、沖積層ハ砂及粘土ヨリ成リ湊川及芝崎川流域ニ發達ス、中臺ハ湊川河水面ヨリ七、八米高キ臺地上ニアリテ地質ハ上部三米ハ砂、其下ハ粘土ニシテ第三紀層マテ到達スルニハ尙幾多ノ距離アルヘク中臺ノ倒潰家屋多カリシハ沖積層ノ厚キニ由リシモノナルヘシ

(六) 安 房 郡

湊 村

死傷竝家屋被害 人口二八三一、死傷者ナシ、戸數六一九、倒潰家屋ナシ

被害ハ僅ニ屋根瓦ヲ破損セシニ過キス

水井ノ變化 井戸ハ深サ三米乃至七米ニシテ概シテ減水ス

裂罅 内浦川ノ沿岸縣道ニ道ヲ横キリ南北ニ幅〇・一五米ノ裂罅生シ川ニ向ケ約〇・三米陷落ス
裂罅ヨリハ水ヲ噴出セリ

土地ノ隆起 海岸ニ於テ約三尺(一米弱)ナリ

鳴動 南七十度西

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ主トシテ頁岩ヨリ成リ砂岩ノ薄層挟在シ小湊附近ニ於テハ北六十度東ニ走リ北西十度内外ニ傾斜シ大風澤ノ西ニ於テハ北二十度東ニ走リ西北西十度内外ニ傾斜ス、沖積層ハ内浦川ノ流域ニ發達シ砂及粘土ヨリ成ル

天津町

死傷並家屋被害 人口六九一三、死傷者ナシ、戸數一四〇七、倒潰家屋ナシ

住家ニ倒潰ナク非住家ニ半潰二戸アリ、被害程度僅少ナリ

井水ノ變化 井戸ハ深サ十二、三米ニシテ増水或ハ減水シ又斷水セシモノ少ナカラス

土地ノ隆起 三尺(一米弱)ナリ

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ頁岩ヨリ成リ實入附近ニテハ北五十度東ニ走リ北西十度ニ傾斜シ、濱藪ニ於テハ北四十度西ニ走リ北東三十度ニ傾斜ス、沖積層ハ砂及粘土ヨリ成リ砂田ノ海岸ニハ沙丘發達ス

鳴動 南三十度西

東條村

死傷並家屋被害 人口三五〇〇、死傷者ナシ、戸數六七〇、住家全潰一戸

被害輕微ニシテ松崎川ノ沿岸廣場ニ於テ崖崩レノ爲メ一戸全潰セリ、浦ノ脇、仲原、入塚等ノ平地ニ於テハ土藏ノ壁ヲ落下セシモノアレトモ家根瓦ヲ落下スルニ至ラス

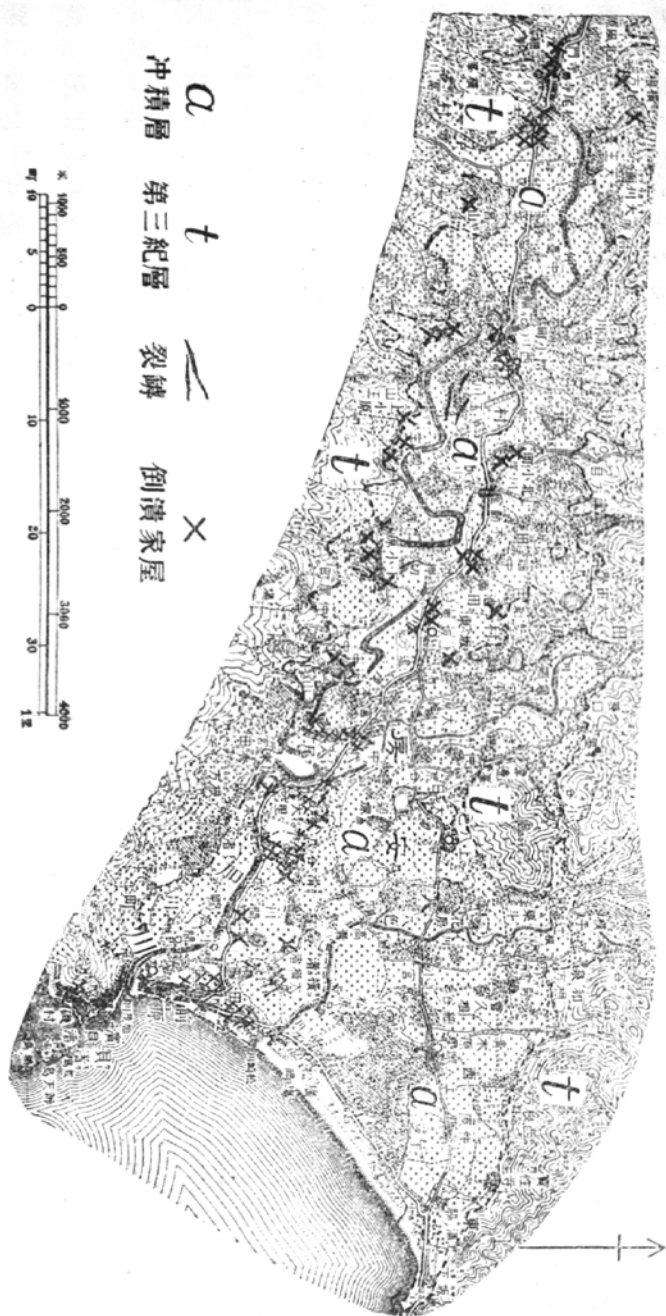
井水ノ變化 井水ハ深サ三米乃至六米ニシテ地震當時混濁ス

塔石 廣場及浦ノ脇ノ墓石ハ半數以上轉倒シ、左ニ十度乃至五十五度廻轉セルモノ數基アリ
地震 二日正午ノ地震ノ強サハ一日正午ノモノニ劣ラスト云ヒ一日ノ震動ハ南北、二日ノモノ
ハ東西ナリ

鳴動 南三十五度西

地質 北部山地ハ第三紀頁岩ヨリ成リ、其南ノ平地ハ砂及粘土ヨリ成ル

圖 十三 第



西條村

死傷跡家屋被害 人口一九七、死傷者ナシ

西條村 打墨	戸数	全潰		半潰		戸数	全潰		半潰	
		住家	百分率	住家	百分率		住家	百分率	住家	百分率
一五一	一三	四五	三・六	一二・四	一・五	一五	一一	二二	三一・〇	六二・〇

非住家全潰五〇棟、半潰五五棟

本村ノ地形ハ東條村ト類似スレトモ被害ハ遙ニ之ヲ凌駕シ、打墨ノ廻塚及滑谷ノ平地ニ大ナリ、滑谷ニテハ菱家三十戸、瓦家五戸アリシモ瓦家ハ全部倒潰ス

裂罅 金山川陸合橋ノ東二十米ノ間ハ道ヲ横斷シテ南北ニ四、五ノ裂罅アリ、幅〇・一米ナリ、陸合

橋ノ東橋脚ノ石垣ハ崩壞墜落セシモ西橋脚ハ木組ナリシヲ以テ破損セス

地質 第三紀層、洪積層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ北部ノ山地ヲ構成シ其南塔段狀平地ノ地

下淺處ニハ洪積層伏在シ花房、大目等ノ平地ニハ洪積期粘土露出ス、沖積層ハ砂及粘土ヨリ成リ

塔段地ニアリテ厚カラサルモノ、如シ、被害多カリシ滑谷附近ハ加茂川ノ沿岸ニ當リ砂ヨリ成

ル

井水ノ變化 殆ント變化ナシ

地震 一日ノ地震ハ震動長ク一、二戸全潰セシモ二日正午ノ震動ハ急激ニシテ廻塚及滑谷ノ家

屋ノ倒潰セシハ實ニ此地震ニ因ル

鳴動 南六十度西

田 原 村

死傷並家屋被害 人口二七二三、傷者二

	戸 数	住全 家潰		住半 家潰		戸 数	住全 家潰	住半 家潰	全潰 百分率		半潰 百分率	
田 原 村	四六八	四三	四四	九・一	九・一	竹 平	一	三	二・八	八・四	四・五	
坂 東	五一	八	九	一五・七	一七・六	川 代	二	六	二・三	一九・〇		
押 切	一九	一	三	一五・八	一七・六	太 尾	一〇	九	二・三	一九・〇		
池 田	四〇	三	三	七・五	七・五	來 秀	一	一				
京 田	三〇	一	一	三・三	三・三	大 里	一九	一〇	五・〇	二六・三		
太田原	六三	一	一	三・三	三・三							

非住家全潰七七棟、半潰五七棟

被害區域ハ加茂川ノ沿岸ニシテ坂東、太尾、大里等被害甚ク倒潰家屋ハ藁家瓦家相半ス

井水ノ變化 井戸ハ深サ四米乃至六米ニシテ地震當時井水黒褐色ニ變シ爾後増加ス、太田原、金山ノ深サ四米ノ三井ハ全部斷水ス

裂罅 太尾大里橋ノ北西、縣道約百米ニ亙リ北西ニ走リ裂罅生シ幅〇・一五米内外ニシテ南西方

ニ落下スルコト〇・六米ナリ、大里ノ平地ニハ(第三十一圖)北西方ニ二條ノ裂罅生シ三百米連續シ

幅〇・三米内外ナリ、該裂罅ノ南西ニ當リ大溝邸内ニ北東ノ方向ニ裂罅生シ長サ十三米ニシテ北

西方ニ一・五米以上落下シ偶其上ニアリシ邸宅ハ北西方ニ傾斜シ大破セリ

地質 加茂川流域ノ平地ハ西ニ次第ニ狹マリ坂東附近ニ於テ幅一料半ナリ、塔段ハ尙克ク發達

大里 加太尾

家屋 大里

大溝 倒家屋 家屋 裂隙

縮尺一萬五千分ノ一

ス、第三紀頁岩ハ山地ヲ構成シ大原坂東ノ平地ニハ洪積期ノ粘土露出シ稍堅キ地盤ヲナス、沖積層ハ砂及粘土ヨリ成リ塔段上ニ薄ク分布シ又加茂川流路ノ附近ニ發達ス、被害甚シキ太尾、大里ニハ砂層分布ス

地震 一日正午ノ地震ハ南北動ニシテ緩慢ナリ倒潰

家屋約三分ノ一ニシテ大里ニテハ全潰家屋二戸ニ過キサリシモ二月正午ノモノハ東西動ニシテ急激ニ襲來シ倒潰家屋約三分ノ二ナリ、大里ノ大部分ハ此地震ニヨリテ倒潰ス

鳴勁 南六十度西

主基村

死傷並家屋被害 傷者三

主 基 村	五二五	一九	四四	三七	八・五	成 川	一四五	一	〇・七	五・五
北 小 町	一一〇	六	一三	五四	二・八	上 小 原	八〇	一	三・七	一・二
南 小 町	一五〇	四	一四	二七	九・三	下 小 原	三〇	八	一・六	二・六

非住家全潰四〇棟半潰四五棟

被害ノ稍著シキハ北小町及下小原ニシテ北小町ハ從來克ク震動スルトコロト稱セシレ恰モ小川ノ沿岸ニ位シ下小原ハ加茂川ノ南方沖積平地ニ位ス

井水ノ變化ナシ

裂罅 北小町小川ノ橋際縣道ニハ路ヲ横キリテ南北ニ四、五ノ小裂罅アリ、玉川ニハ家屋ニ被害
少ナカリシモ到ルトコロ小裂罅生シ水ヲ噴出セリ

地質 山地ハ第三紀層、平地ハ洪積層及沖積層ニシテ北小町、南小町縣道筋ニハ洪積期粘土露出
ス、玉川ハ砂ヨリ成ル

地震 一日正午ノ地震ニテ全潰セシモノ十五戸、半潰十五戸、二日正午ノ地震ニテ全潰セシモノ
四戸、半潰二十九戸ニシテ兩者相匹敵ス

鳴動 南四十度西

吉 尾 村

死傷竝家屋被害 人口三三五〇、死傷者ナシ

吉尾村	六三一	一八	三三	二・八	五・二	細野	四五	一	二・二	一
寺門	二四	三	二	一二・五	八・三	松尾寺	八四	二	二・三	一七・八
横尾	四四	一	四	一	九・二	大川面	七五	七	九・三	二・六
官山	八八	一	二	一	二・二	仲	六五	五	七・七	一〇・七

非住家全潰一五棟、半潰三二棟

被害區域ハ仲、寺門、松尾寺等加茂川ノ沿岸ニ位シ下流地域ニ於ケルヨリモ被害少ナシ

井水ノ變化 井戸ハ深サ六米乃至十米ニシテ井水ハ當日白濁セシノミナリ

裂罅 坂谷御園橋附近ノ縣道ニ小裂罅生ス

地震 一日正午ノ地震ハ南北動ニシテ之ニヨリテ全潰家屋十五戸アリ、二日正午ノモノハ東西

動ニシテ之ニヨリテ全潰家屋三戸アリ

二日正午ノ地震ハ田原村ニ於テ最モ強カリシカ如シ

鳴動 南四十五度西

(七) 印 幡 郡

大 森 町

死傷並家屋被害 人口三九八〇、死傷ナシ、戸數六二〇、住家全潰ナク半潰三戸、非住家全潰ナク半潰二棟

本町ノ被害ハ輕微ニシテ半潰家屋ハ木下、布佐間縣道第六軒ニアリテ辨天橋ト六軒橋トノ間ノ

平地ナリ(第三十二圖)

井水ノ變化 井戸ノ深サハ二十米乃至四十米ニシテ當時白濁

セシモ漸次復舊ス

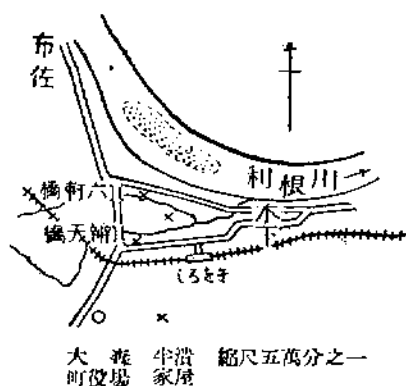
裂罅 六軒ノ木下三叉街附近ニ於テ北側ノ四宅地内ニ南北數

條ノ裂罅生シ水ト砂トヲ噴出シ水ハ高サ〇・三米ニ噴キ、砂ハ高

サ〇・二米堆積セリ、辨天橋ノ北ニハ川ニ沿ヒ約三十米ノ間裂罅

生ス、發作縣道約八十米ノ間、路ニ平行シテ北東ニ裂罅生シ南東

圖 二 十 三 第



方ニ約〇三米落下ス

塔石 大森長樂寺ノ紀念碑ハ高サ四米ノ花崗岩ニシテ南ニ轉倒ス、六軒ノ煉瓦工場ノ煙突ハ高サ九米ニシテ約半部ヨリ折レ東方ニ轉倒ス

地質 木下町木下附近ノ斷崖ハ高サ二十五米ニシテ上部ハ礫珪ニシテ厚サ十米、其下ニ介層及砂岩アリテ殆ント水平ニ成層ス、平地ハ沖積層ニシテ六軒附近ハ埋立地ナリト稱ス

地震及鳴動 地震動ハ南北ニシテ鳴動ハ南西ノ方向ニアリ

印幡郡ノ他町村ニ於テハ被害少ナク全潰家屋ナク住家ノ半潰ハ佐倉町一戸、根郷村一戸、白井村一戸ナリ、利根川沿岸ノ堤防ハ上幅四・五米、底幅二十五米、高サ十米内外ニシテ布鎌村地先、布佐町附近ニ於テハ堤防上幅三廻内外ノ裂罅生シタルモノアレトモ著シカラス

(八) 匝 瑤 郡

匝瑤郡ニ於テハ共興村吉崎ニ古キ酒造庫ヲ住家トセシモノ一戸全潰シ、野田村野手ニ於テ一戸半潰シ他ニ被害ナク土藏完全ナリ

地震動ハ概シテ東西ニシテ鳴動ノ方向ハ西ナリ

(九) 海 上 郡

被害輕微ニシテ全潰、半潰等ノ家屋ナク裂罅、山崩レ等ノ地變ナシ

(二〇) 香 取 郡

香取郡ノ被害輕微ニシテ小見川町ニ死傷者各一名、全潰家屋ハ佐原町一戸、新島村一戸、高岡村二戸、滑川町一戸ニシテ何レモ利根川沿岸ニアリ

(二一) 山 武 郡

東 金 町

死傷竝家屋被害 傷者六(高等女學校校舍ノ家根瓦墜落ノ爲メ女生負傷ス)戸數一七〇〇住家全潰三戸、半潰一四戸、非住家全潰六棟、半潰七棟

被害區域ハ全部臺方ニシテ臺方ノ戸數百五十ニ對シ全潰百分中二ナリ

井水ノ變化 井戸ハ深サ六米内外ニシテ井水ニ變化ナシ

裂罅 東金八鶴湖ノ北岸ニハ道ヲ横切リテ南北ニ數條ノ裂罅アリ幅〇・二米内外ナリ

塔石 東金西福寺ノ墓石ハ頁岩上ニアリテ約四分ノ一轉倒シ其方向南及北相半シ右ニ二十度

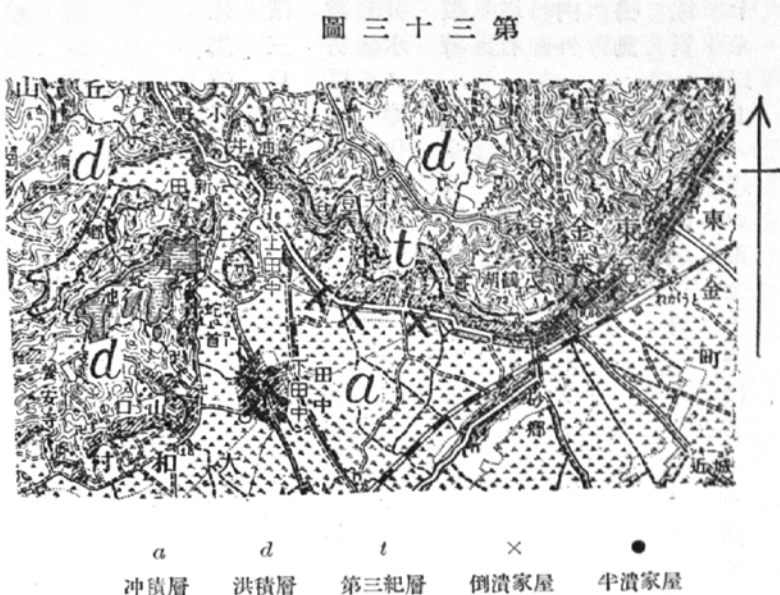
内外ニ廻轉セルモノ七、八アリ

鳴動 南五十度西

地質 第三紀層、洪積層及沖積層コリ成ル、第三紀層ハ頁岩ヨリ成リ殆ント水平ニ成層シ厚サ五十米以上ニ達シ東金小學校裏ニハ高サ四十米ノ懸崖ニ露出ス、洪積層ハ壩海コリ成リ第三紀層ヲ被覆ス、沖積層ハ平地ヲ構成シ地表下六、七米間ハ粘土ナリ

(一一) 長 生 郡

アル小西ニ於テ稍著シ(第三十三圖)下田中、福俵附近ニハ井戸ナク河水ヲ飲料ニ使用ス、該地ハ上部三、四米ハ砂、其下ニ黑褐色粘土、其下砂ニシテ約二十米ニシテ第三紀層ニ達ス



縮 尺 五 萬 分 之 一

丘 山 村

死傷者ナク全潰家屋一戸ニシテ被害輕微ナリ
井水ニハ變化ナシ、裂罅ハ小野ヨリ瀧ニ至ル新設
縣道中田地ヲ埋立テシ部分約六十米ニ互リ二米
沈下ス、其他小野ヨリ男蛇ヶ池ニ至ル里道ニ小川
ニ平行シテ小裂罅アリ

大 和 村

死傷竝家屋被害 人口二一九五、死傷者ナシ

大和村	戸數	住全家潰	住半家潰	全潰百分率	半潰百分率
四三九	二	八	〇・四	一・八	
下田中	一	六	二・五	一五・〇	
小西	一	一	一・六	一・六	
福俵	一五〇	一	一	一	

被害ハ下田中ノ部落ニ最モ甚タシク西部溪間ニ

茂原町

死傷竝家屋被害 人口六四七五、死傷者ナシ

茂原町	戸数	住全家潰	住半家潰	百分率潰	百分率潰
茂原	一三二七	一四	四	〇・三	〇・三
六〇〇					
高師	二五〇	一二	一	一三・三	
鶯巢新田	一五				
戸数		住全家潰	住半家潰	百分率潰	百分率潰
一五		一二	一	一三・三	
二五〇					
高師					
鶯巢新田					

非住家全潰八棟、半潰一二棟

家屋ノ被害ハ茂原ニテハ繭買上所瓦平家倒潰シ茂原川ニ沿フ新田ニ於テハ全潰二戸、半潰數戸

第三十四圖



沖黄層 第三紀層 裂罅 山崩 全貴家屋 半潰家屋

0 500 1000 2000 3000 4000

アリ(第三十四圖)
井水ノ變化 井戸ハ
深サ六米内外ニシテ
井水ニ變化ナシ地質
ハ此間砂ニシテ六米
下ニハ第三紀層アリ
瓦斯井ハ深サ四百米
内外ニシテ三井アリ
何レモ變化ナシ
鳴動 南四十五度西
或ハ北七十度西

五 郷 村

死傷竝家屋被害 人口二一二四、死傷者ナシ

五 郷 村	戸 数	住全		住半		百分率		中 網 善 島 寺	戸 数	住全		住半		百分率	
		家潰	家潰	家潰	家潰	全潰	半潰			家潰	家潰	家潰	家潰	全潰	半潰
早 野	四〇〇	三	二八	〇・八	七・〇			六九		一	一	二	一		
八 幡 原	一七九	二	二五	一・一	一三・九			七九							
八 幡 原	四三	一	一	二・三	二・三									二・五	

被害ハ早野ニ最モ多ク八幡原、綱島ニテハ僅少ナリ、土藏ハ村内六十三アリテ其全部半潰セリ(第三十四圖)

井戸 村内ノ飲料井ハ深サ二十米乃至四十米ニシテ井水ニ増減アリ、灌溉用井ハ深サ三百米内

外ニシテ變化ナシ、早野ニ於テハ井戸ハ深サ六米内

外ニシテ一時混濁セシノミナリ

崩壊 五郷村ヨリ鶴枝村ニ至ル陸田坂ノ切割ハ南

北ニ長ク幅四・五米、高サ九米、長サ八十米ニシテ灰色

頁岩ヨリ成ル、中北ノ四十米ハ切割ノ兩側上部ヨリ

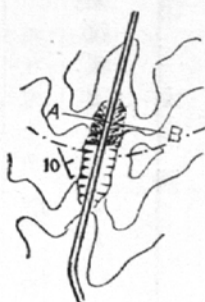
崩壊シ通路ヲ埋没セリ(第三十五圖)、頁岩ノ地表ニ近

キ分解セル部分ハ地震ノ爲メ切割ニ平行シテ裂罅

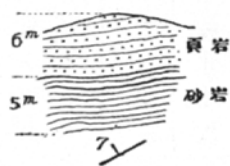
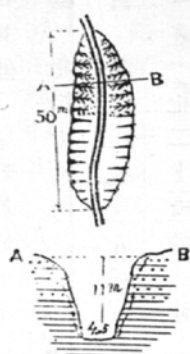
生シ崩壊セルモノナリ、綱島ノ一宅地ノ砂層中ニ裂

罅生シ噴水セリト云フ

圖五十三第



圖六十三第



塔石其他 早野真崎ノ墓地ニ於テ五個ノ墓石中ニハ左ニ五度内外廻轉スルモノアリ
鳴動 北四十度西

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ灰白色頁岩ヨリ成リ二枚介化石ヲ埋藏シ陸田坂
峠ニテハ北二十度西ニ走リ東北東十度ニ傾斜ス、平地ヲ構成スル沖積層ハ砂及粘土ヨリ成リ早
野ニ於テハ砂ノ厚サ二十米内外ニシテ下ニ第三紀層アリ

鶴枝村

死傷竝家屋被害 人口三一四七、死傷者ナシ

鶴江村 上永吉	戸數 五四〇 八六	住家潰		百分率		戸數 九四	住家潰		百分率	
		全潰	半潰	全潰	半潰		全潰	半潰	全潰	半潰
		七	五	一・三	〇・九	三ヶ谷	一	一	一・〇	一
		六	三	七・〇	三・四	立木	一	二	一	二・三

非住家全潰一三棟、半潰四棟

被害區域ハ鶴枝川ノ沿岸ニシテ上永吉ノ五郷、東兩村道ノ道路兩側部落最モ甚タシク該處ニハ
十二三戸軒ヲ列ヘ殆ント全部倒潰ス、該處ハ元鶴枝川ノ流路タリシ所ニシテ盛土シテ家屋ヲ建
設セシモノナリト云フ(第三十四圖)

井水ノ變化 平地ニ於ケル井戸ハ深サ十米内外ニシテ變化ナク村役場ノ深サ二百米ノ瓦斯井
及上永吉ノ深サ四百米ノ瓦斯井ハ水及瓦斯ノ噴出ヲ休止ス

裂罅 上永吉ノ鶴枝川沿岸ニ四、五百米ニ亙リ川ニ平行シテ略東西ニ裂罅生シ或ハ陥没シ上永

吉ヨリ村役場ニ至ル里道ニハ浸水セシコロアリ

崩壊 鶴枝村ヨリ東村ニ至ル西湖坂ノ切割ハ南北ニ長サ五十米、幅四・五米、高サ十一米ニシテ上

部ニハ粗鬆ナル砂岩六米、下部ニ五米ノ灰色頁岩露出シ該層ハ北五十度東ニ走リ北西七度ニ傾

斜ス(第三十六圖)該切割中北二十米ノ間上部ノ砂岩ハ地震ニ際シ崩壊シ道ヲ閉塞セシモ崩壊ハ

下部ノ頁岩ニ及ハス

塔石 鶴枝小學校前ノ忠魂碑ハ北四十五度西ニ、上永吉ノ忠魂碑ハ南ニ、新堀ノ木鳥居ハ南四十

五度西ニ轉倒ス

鳴動 北五十度西

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ頁岩及砂岩ヨリ成リ北方ニ傾斜シ砂岩ハ粗鬆、厚

サ五米ニシテ地表近ク頁岩中ニ介在シ鶴枝、東村道山路ニ露出ス

東 村

死傷並家屋被害 人口五二二六、壓死者一

東 村	戸 數	住全 家潰	住半 家潰	百分全潰 率	百分半潰 率	戸 數	住全 家潰	住半 家潰	百分全潰 率	百分半潰 率
	七・一六	二・一	四・七	三・七	六・五		上芝原	一・〇三	一・一	一・五・五
下 芝原	五・〇			一	二・〇	下芝原	一一・一	三五	九・九	三一・五

非住家全潰四六棟、半潰二九棟

被害區域ハ芝原川沿岸ニシテ川ト南部丘陵地トノ中間ニ位スル上芝原及下芝原ヲ包括シ郡内

最モ被害多シ(第三十三圖)

井水ノ變化 手掘井ハ深サ八米内外ニシテ井水ノ變化ナク、二百米以上ノ井水ハ一時増加シ上芝原五井中三井斷水シ下芝原ハ不變ナリ

裂罅 埴生川ニ沿ヒ里道八板附近二箇處ニ於テ長サ十五米ノ間北西ニ裂罅生シ川ニ向ヒ約〇・三米落下ス、下芝原すくも橋ノ北西詰里道北西ノ方向ニ約十二米裂罅生シ約〇・八米低ドス

塔石 寺院ノ墓石ハ全部轉倒シ其方向南西多シ

鳴動 北七十度東

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ丘陵地ヲ構成シ頁岩及砂岩ヨリ成リ殆ント水平ニ成層ス、沖積層ハ平地ヲ構成シ上部約二米ハ砂ニシテ其下ハ粘土及砂ノ互層ナリ

土 睦 村

死傷竝家屋被害 人口五四〇〇、死傷者ナシ、戸數九一二、住家全潰一戸、半潰二戸、非住家全潰二棟、半潰二棟

全潰家屋ハ上之郷、其他倒潰家屋ハ北山田、大谷木等ニアリテ何レモ沖積平地ニアリ

一 宮 町

死傷竝家屋被害 死傷者ナシ、家屋ノ全潰、半潰ナク、土藏一棟全潰シ約百棟破損ス

井水ノ變化 井戸ハ深サ五米内外ニシテ水深一・五米ナリ、二、三井ハ砂ノ爲メ多少淺クナリシモ他ハ變化ナシ

塔石 約三分ノ一轉倒セシモ其方向明カナラス

地震 震動方向ハ北東、南西ニシテ鳴動ハ北或ハ西方ヨリ聞ユ

(二二) 夷 隅 郡

長者 町

死傷並家屋被害 人口三一五〇、死傷者ナシ、戸數六六五、住家全潰一戸、非住家全潰五棟、半潰一七棟

全潰家屋ハ江場土ニ一戸アリシノミナリ、家根瓦墜落シ、壁ノ振落セラレシ等被害ノ比較的多カリシハ三門^カニシテ鐵道線路ト丘陵地トノ中間ニ位スル冲積平地ナリ

井水ノ變化 三門附近ノ井戸ハ深サ五米内外ニシテ長者町附近亦之ニ同シ、地震當時井水一時混濁セシモ漸次復舊ス

裂罅 三門中島ノ所謂將源淵ノ堤防ハ高サ三米、幅六米ニシテ堤防上約八十米ニ互リ東北東ニ裂罅生シ或ハ二米内外陷落セリ、該處ハ五、六年前洪水ニテ決潰セシモノヲ修理セシモノナリ、江場土ニ於テ數年前洪水ニテ缺處ヲ生シ路ハ修理セラレシモ今次ノ地震ニテ修理セシ處ハ沈下シ缺處ハ其爲メニ充填セラル、ニ至レルトコロアリ、和泉浦ノ沙濱上ニ於テハ略南北ニ裂罅生シ噴水セリ、其後海水ハ該沙濱ヲ越シテ夷隅川ニ到達スルコトアルニ至レルヲ以テセハ該沙濱ハ多少低下セシモノ、如シ

塔石 寺院ノ塔石、墓石ハ其小ナルモノ多ク轉倒セリ、其割合五分ノ一内外ナリ
鳴動 南三十度東

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ丘陵地ヲ構成シ頁岩ヨリ成リ、沖積層ハ平地ヲ構成シ粘土及砂ヨリ成リ地表ニハ一米ノ粘土アリテ其下六、七米ハ砂ナリ

中 根 村

死傷竝家屋被害 人口二六二九、傷者二、戸數四九〇、住家全潰ナク、半潰五戸、非住家全潰七棟、半潰四棟

被害ノアリシハ夷隅川沿岸ノ押日、東中瀧、嘉谷等ニシテ中央部ニハ被害甚タ少ナシ

井水ノ變化 井水ニハ變化少ナシ、中瀧大内邸ノ井水ハ深サ十三、米内外ニシテ水深十二米内外アリ舊時酒造ニ用キラレシモノナリト云フ、地震後二、三日ニシテ湧出量増加シ十五、六日間繼續シ、後三日休止シ再ヒ湧出量増加セシモ二、三日ニテ漸次復舊セリ、想フニ該地ハ砂層深クシテ地震ニヨリテ帶水層攪亂ノ結果一時増水シ漸次復舊セントセシ時ニ更ニ地震ニヨリテ攪亂セラレシモ復舊速カナリシモノナルヘシ、水溫ハ地震前ニ比シ著シク寒冷ナリト云フ

裂罅 四堰小川ノ小堤防約二百米ニ亘リテ北東、南西ニ裂罅生シ南東方田面ニ向ケ低下スルコト〇・三米ナリ、嘉谷ニ於テ夷隅川ニ沿フ里道ニ北西ノ方向ニ裂罅生シ川ニ向ケ決潰スルコト長サ約五十米ナリ

塔石 墓石ノ轉倒少ナシ

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ頁岩ヨリ成リ丘陵地ヲ構成スルノミナラス、部田附近平地ノ基盤ヲ構成シ部田附近ニ於テハ地表ニ露出スルノミナラス地下一、二尺ニハ頁岩ノ伏在スルアリ、中瀧、堀込附近ノ夷隅川沿岸ニハ頁岩中介層挟在シ北々東ニ緩斜スルヲ見ル、沖積

層ハ夷隅川沿岸押目ノ下流ニ於テハ厚キカ如キモ部田附近ニ於テハ砂ヨリ成リ厚サ一、二米乃至五米ニシテ下部ニ第三紀層ニ到達ス

吉澤村

死傷竝家屋被害 死傷ナク戸數六百五十三中全潰セシ家屋ナク、大破セシモノ十六戸アリ、其區域ハ夷隅川沿岸ノ下通及支流沿岸ノ勝間附近ナリトス

井水ノ變化 井水ハ一時白濁セシモ漸次復舊ス

裂罅 著シキモノナシ、夷隅川ノ下底ニハ第三紀層露出シ沿岸ニハ厚サ二米乃至四米ノ砂層アリ、砂層ハ地震ニ由リテ崩壊シ其上ニ繁茂セシ竹林、杉森等ノ川中ニ墜落シ河流ヲ阻止セシトコロ少ナカラス

鳴動 南五十度西

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ頁岩ヨリ成リ丘陵地ヲ構成シ筈拔ノ西方ニ於テ北七十度東ニ走リ北々西四度ニ傾斜ス、夷隅川及支流ノ谷底ニハ本層露出ス、沖積層ハ平地ヲ構成シ粘土及砂ヨリ成リ其厚サ四、五米ナリ

千町村

死傷竝家屋被害 人口三五〇三、傷者一

千町村	戸數	全潰		半潰		戸數	全潰		半潰	
		住家	百分率	住家	百分率		住家	百分率	住家	百分率
六一〇	四	二	〇・六	〇・三	新田	二五	一	四	四・〇	一六・〇

吹 良

六〇

三

五

五・〇

八・三

非住家全潰一棟、半潰四棟

被害區域ハ夷隅川流域ニシテ更ニ其沿岸ニ於ケルヨリモ支流沿岸ニ多シ、倒潰セル家屋ハ多ク
藥家ナリ

井水ノ變化 井戸ハ深サ四、五米ニシテ變化ナシ

塔石 新田榮新寺ノ共同墓地墓石ハ百基中約三分ノ二轉倒シ其方向南方多ク西方之ニ次ク
鳴動 南四十度西

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ主トシテ北部丘陵地ヲ構成シ主トシテ灰白色ノ
頁岩ヨリ成リ厚サ一米内外ノ介層ヲ介有シ北方ニ四、五度傾斜ス、本層ハ又夷隅川沿岸ニ露出セ
ルヲ見レハ平地ノ沖積層ノ下ニハ淺キ處ニ本層ノ伏在スルモノアルヘシ、沖積層ハ平地ヲ構成
シ砂及粘土ヨリ成ル

國 吉 町

死傷竝家屋被害 人口三一九九、死傷者ナシ、戸數六三四、住家全潰三戸、半潰四戸

本町ハ夷隅郡中最モ被害大ナリ

住家ノ全半潰ハ荻谷ノミニシテ全潰一分五厘、半潰二分ノ割合ナリ、其他破損家屋ノ多キハ夷隅
川ニ沿フ樂町附近ナリトス

井水ノ變化 井戸ハ深サ四米乃至七米ニシテ水量ハ多少ノ増減アリ

裂罅 夷隅川ニ架セル荻谷橋西詰ノ縣道ハ橋脚破壊セシヲ以テ道ヲ横キリ南北ニ裂罅生シタ

リ、該處ハ水力電氣工事ノ鐵管ヲ埋沒セシ處ニシテ地盤軟弱ノ爲メ崩壞セシナリ
 塔石 荻谷寶勝院ノ墓石ハ約五百中百轉倒シ、八十ハ東方、二十ハ西方ナリ、同寺院内約十墓石ハ
 左ニ十度内外廻轉ス

鳴動 南四十度西

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ夷隅川東及南ノ丘陵地ヲ構成シ、沖積層ハ夷隅川
 西及北ノ平地ヲ構成ス、夷隅川ニ沿フ荻谷及樂町附近ニ於テハ沖積層ハ粘土ヨリ成リ、厚サ七米
 以上ニ達シ西部中川村近隣ノ平地ニ於テハ塔段ヲ形成シ地下數米ニ第三紀層伏在スルモノ、
 如シ、夷隅川東ノ國府臺ニ於テハ沖積層ノ厚サ約四米ニシテ其下ニ第三紀層アリ

中川村

被害極メテ少ナク倒潰セシモノナシ

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ丘陵地ヲ構成スル外平地竝ニ夷隅川河底ニ露出
 シ波狀褶曲ヲナスモノ、如ク引田ニテハ南西七度ニ、増田ノ西ニ於テハ北東五度ニ傾斜ス、沖積
 層ハ粘土及砂ヨリ成リ引田ノ東及増田附近ニ於テ塔段ヲ形成ス

大多喜町

住家ノ被害僅少ニシテ半潰三戸ニ過キス、土藏、納屋等ノ全潰三棟、半潰十七棟ナリ、被害地ハ夷隅
 川ニ臨メル大多喜及上原ナリ

塔石 大多喜櫻谷寺ノ墓石ハ五十中約二分ノ一轉倒シ三墓石ハ左ニ五度乃至三十度廻轉ス
 鳴動 北七十度西

御宿町

死傷竝家屋被害 人口五三三七、死傷者ナシ、戸數九六九

全潰家屋ナク家根瓦ノ墜落セシモノ十五戸アリ、土藏、物置ノ破損セシモノ二十五戸アリテ多ク新町附近ナリ、池田水産乾燥工場ハ煉瓦平家ナレトモ龜裂サヘ生セス、破損ナシ

井水ノ變化 海岸砂地ノ深サ七米内外ノ井戸ハ概シテ増水シ丘陵ニ近キ井戸ハ減水ス

塔石 妙音寺門前ノ石塔ハ左ニ三十五度廻轉シ、門内ノ石地藏ハ南西方ニ轉倒シ、墓地ハ第三紀頁岩上ニアリテ墓石ハ約三分ノ一轉倒シ其方向ハ大部分南方ナリ

裂罅 須賀小川ノ道路約五米龜裂シ、清水川ノ道路約四米決潰ス、妙音寺後ノ第三紀頁岩ヨリ成ル崖ハ小崩壊ヲナス

池田水産乾燥工場ノ煉瓦煙突ハ高サ十六米六(五十五尺)ニシテ頂上ヨリ一米、一六米及六米(二十尺)ノ三箇處ニ龜裂生シタリ

鳴動 南七十度西

豊濱村

死傷竝家屋被害 人口四五〇〇、死傷者ナシ、戸數八二〇

被害少ナク倒潰家屋ナシ

井水ノ變化 井戸ハ深サ五米内外ニシテ増水シ或ハ減水ス

崩壊 村役場東方ノ新官瀬戸縣道ノ懸崖約五十米ノ間崩壊シ崖下ニ岩堆ヲナス

海水ノ變化 初震ト共ニ海水著シク退干シタリ、二日正午ノ地震後モ退干シ後一、二米内外ノ高

サニ來潮シタリ

地質 第三紀頁岩コリ成ル、頁岩ハ北五十度乃至六十度東ニ走リ北西五度内外ニ傾斜ス
鳴動 南七十度西、鳴動ノミニシテ震動ヲ伴ハサルコトアリ

勝浦町

死傷就家屋被害 人口六七八六、死傷者ナシ、戸數一三六七

住家ノ倒潰セシモノナク家根瓦ノ一部墜落セシモノ十六戸アリ、被害程度極メテ僅少ナリ

井水ノ變化 井戸ハ深サ十米内外ニシテ地震ノ結果減水セシモノ多シ

崩壞 串濱、松部間隧道北入口懸崖約七十米ノ間崩壞シ縣道ノ交通ヲ一時遮斷セリ

塔石 松部妙潮寺ノ石塔ハ左ニ二十五度廻轉ス

海水ノ變化 一日初震後海水退キ後大潮ト同一程度ニ來潮ス、二日正午地震後小海嘯アリテ平

水ヨリ約二米高シ、後約五十分間ニ亙リ五分乃至十分ノ週期ニテ振幅四、五尺（一二米乃至一・五米）

ノ満干アリタリ

土地ノ隆起 隆起ハ殆ント之ヲ認メ難キモ銚子測候所勝浦出張所員ハ海岸約一尺（〇・三米）隆起

セリト稱ス

鳴動 南七十度西

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ丘陵ノ大部分ヲ構成シ頁岩及砂岩ヨリ成リ頁岩ハ松部以東ニ發達シ北東ニ走リ北西十度乃至十五度ニ傾斜シ串濱ニテハ砂岩ノ薄層ヲ挾介ス、砂岩ハ船付以西ニ露出シ北五十度乃至六十度西ニ走リ北東五度乃至十度ニ傾斜シ東部ノ頁岩

トハ斷層ヲ以テ境スルモノ、如シ、沖積層ハ海岸ノ沙濱ヲ構成シ砂ノ厚サ十米内外ナリ

興津町

死傷並家屋被害 人口五六八九、死傷者ナシ、戸數一〇三三、住家全潰一戸、半潰一七戸

全潰家屋ハ興津鍛冶工場ニシテ半潰ハ興津ノ土藏造リ住宅ナリ

井水ノ變化 興津附近ニハ井水ニ變化ナキモ大澤、藏ヶ臺等ノ被害殆ント無キ處ニ於テハ井戸

ハ深サ七米内外ニシテ殆ント全部斷水セリ

裂罅 興津駐在所及妙覺寺門前ニハ北七十度東ニ走リ長サ三十米ニ互ル裂罅數條生シ幅〇・一

米内外ニシテ地震當時噴水セリ

塔石其他 妙覺寺ノ墓石ハ五、六百中約七十轉倒シ其方向西方多シ、又約百墓石ハ左廻轉ヲナシ

其角度三十度乃至六十五度ナリ、守谷清海工場長宅ノ門柱ハ左ニ五度廻轉ス、清海工場ノ高サ八

十尺(二十四米)ノ煉瓦煙突ハ頂上三尺ニテ龜裂生シテ二分シ一ハ、東方ニ、一ハ西方ニ墜落ス

崩壞 鶴原西隧道ノ入口、行川西隧道ノ入口、安房郡境界附近海岸ニ小山崩レアリテ縣道ヲ破壞

セリ

海水ノ變化 二日午後一時海水退干シ後約二米ノ高サニテ來潮セリ

土地ノ隆起 約二尺(〇・六米)

地質 第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ砂岩及頁岩ヨリ成リ砂岩ハ勝浦町ヨリ連續シテ
鶴原附近マテ發達シ北六十度西ニ走リ北東五度ニ傾斜シ尙興津、守谷間ニモ頁岩中ニ約百米ノ
厚サヲ有シテ介在ス、頁岩ハ鶴原、守谷間、興津以西ニ發達シ興津附近ニテハ北七十度西ニ走リ北

東十度内外ニ傾斜スレトモ大澤附近ニテハ水平トナリ西部安房郡境界附近ニテハ北東ニ走リ
北西十度乃至十五度ニ傾斜スルニ至ル、沖積層ハ海岸ニ沙濱ヲ構成ス、駐在所附近ノ裂罅ヲ生シ
タル處ハ第三紀層ニ接シタル沖積層地ナリトス

鳴動 南六十度西